

URGCCマトリクス

【学士教育プログラム学習教育目標とURGCC学習教育目標との対応関係表】

URGCC学習教育目標		学士教育プログラム学習教育目標	法学学士教育プログラム
		学士教育プログラム学習教育目標がURGCC学習教育目標と対応する理由	
自律性	自分自身が掲げる目標の達成に向けて、自律的に学習し行動することができる。	法学を中心として、社会科学の幅広い知識をあわせもち、必要な判断力やコミュニケーション能力を身に付ける。(1)自律性	法学を学び、自分自身が掲げる目標の達成に向けて、自律的に学習し行動することができるようになる。
社会性	市民として社会の規範やルールを理解し、倫理性を身に付け、多様な人々と協調・協働して行動できる。	法学を中心として、社会科学の幅広い知識をあわせもち、必要な判断力やコミュニケーション能力を身に付ける。(2)社会性	法学を学び、市民として社会の規範やルールを理解し、倫理性を身に付け、多様な人々と協調・協働し、社会の一員として行動できるようになる。
地域・国際性	地域の歴史と自然に学び、世界の平和及び人類と自然の共生に貢献することができる。	法学を中心として、社会科学の幅広い知識をあわせもち、必要な判断力やコミュニケーション能力を身に付ける。(3)地域・国際性	憲法・行政法学で対象とされる地方自治をはじめ、法学の学びを通じて地域的な側面に通じるとともに、国際的な側面も学び、世界的・地域的に貢献できるようになる。
コミュニケーション・スキル	言語とシンボルを用いてコミュニケーションを行い、自分の考えや意思を明確に表現することができる。	法学を中心として、社会科学の幅広い知識をあわせもち、必要な判断力やコミュニケーション能力を身に付ける。(4)コミュニケーション・スキル	法学を学ぶことを通じて、言語を用いて他人とコミュニケーションを行い、自分の考えや意思を明確に表現することができるようになる。
情報リテラシー	幅広い分野の情報や知識を多様なチャンネルから収集し、適切に理解した上で取捨選択し、活用することができる。	法学を中心として、社会科学の幅広い知識をあわせもち、必要な判断力やコミュニケーション能力を身に付ける。(5)情報リテラシー	法学を学び、幅広い分野の情報や知識を多様なチャンネルから収集し、適切に理解した上で取捨選択し、活用することができるようになる。
問題解決力	批判的・論理的に思考するとともに、これまでに獲得した知識や経験等を総合して問題を解決することができる。	法学を中心として、社会科学の幅広い知識をあわせもち、必要な判断力やコミュニケーション能力を身に付ける。(6)問題解決力	法学を学び、批判的・論理的に問題を立て、思考し、これまでに獲得した知識や経験等を総合して問題を解決することができるようになる。
専門性	専攻する学問分野における思考法、スキル、知識等を体系的に身に付け、活用することができる。	法学を中心として、社会科学の幅広い知識をあわせもち、必要な判断力やコミュニケーション能力を身に付ける。(7)専門性	法学を学び、法学における思考法、スキル、知識等を体系的に身に付け、活用することができるようになる。